（前川教授　障害児教育）
瀬戸口

おはようございます。まずお断りしておかなくてはいけないんですが、本日は私どものセンター長の前川がですね、こちらでご報告させてもらう予定でしたが、体調不良で急遽、私同じセンターの瀬戸口と申します。私の方から説明させていただければと思います。

私どものセンターですが設立されてまだ 3 年ぐらいしかたたない新しいセンターでございます。こちらに養護隊員の方がどれくらいいらっしゃるのでしょうか、ちょっと手を上げていただいてよろしいでしょうか。あそうですか、分かりました。まあ通常教育の中でも御承知でしょうが、特殊教育から特別支援教育へと大きな転換をわが国でもしているところなんですね。でそれにともなう研究をということで設立されたのが私どものセンターです。私どもセンターでは大きく 3 つの機能を持っていまして、教員研修機能･研究機能・理解啓発発信機能という 3 つの機能を持ってここまで参りました。このイニシアティブの事業に関してですが、前年度から開始されてまだ活動としては 1 年しか行っていないというところです。私どもが今回イニシアティブということで取り組んでいますのが、先ほど手を上げていただいた方々のようにすでに各国の方へ障害児教育、それから幼児教育を一部含むんですが、そういったところで活躍されている隊員の方々を国内からどうやってサポートできるのか、そういったことを考えていきたいというところで活動しております。事業の概要ですが私どものセンター先ほどお話しましたように筑波大学に心身障害学系というのがあります。今度名称が変わるんですが、その心身障害学系に 40 人規模の心身障害学に関わる研究者を擁している大学です。それから附属の障害教育 5 校といっているんですが、附属盲学校･聾学校そして知的障害、肢体不自由、自閉症という 5 つの障害附属の学校を持っているわけです。お話しましたように教育実践と、日本で最大の研究組織なんですが、心身障害学系の研究力を橋渡ししていく役割として私どものセンターが設置されたわけです。そういったことを派遣されている方々の支援に活用できないだろうかというのがそもそものスタートだったわけです。それらから私ども先ほどお話ししましたように教員研修というのは特に現職教員の研修機能を強化しておりますので、1 年間の研修プログラムでしたり、短期それから免許法の認定講習ですね、特別支援教育の免許を取得するための講習、それからセミナー等を多数開催しているわけなんですね。そういった研修プログラムというのを活用していただくような方法が無いかと考えているわけです。様々な教育的リソースということについては先ほどお話しましたように、附属の学校を 5 つ持っているわけなんですね。そこは日々皆様と同じように協力活動を展開しておりますので、そういったところにある教材ですとか、それからいわゆる事例研究ですね、特に行動上で非常に大きな不適応を持っているだとか、それから障害の程度が極めて重度であるとか、そういった子どもたちの指導は国内でも苦慮しているわけなんですが、そういった子どもたちの事例研究としてのリソース、教材･指導法といったリソース、それから非常に重要なのが

人材ですね、皆さんと日常的にやり取りをしながら現地で起こっている課題であったり指導法の問題であったり、子どもについての情報･カンファランス･事例検討等を行う際のパートナーになるような人材というのが私どものところにあるのではないかということです。大学間連携ということに関してはこれまで私どものセンターそれから筑波大学が持ってきたネットワークがございますのでそういったところで何かお役に立てる用件が出てくるのではないかということを考えております。で実際に行った活動なんですが、まずはサポート･ニーズ調査というものを行いました。5:55 これはですね、すでに派遣されている方々です、中にはこの 3 月末をもってお帰りになった方々もいらっしゃるんですが、その方々に派遣前･派遣中･帰国した後に発生するであろうニーズを想定していただいた上で、把握してみようとしたということです。それから昨日から皆さんの派遣前研修が開始されているわけですが現地では皆さん、まずは子どもたちとしゃべれるようにならないことには、教員仲間と一緒にしゃべれるようにならなければ、そういったことで 3 ヶ月間というのは非常にその語学に対しての研修が中心になっていくだろう。そういった中で何らかの専門的な研修であったりそういったものを組み込むことが可能になるのであればそういったことについても検討していきたいということを考えています。現状としては本当に語学研修まさに新たな言語を獲得していくという方々もいらっしゃると思いますので、そういった方で大変な研修期間になるかと思います。そのへんのところはまだ今後調整を要するところなのかな。それから先ほどお話ししましたように派遣隊員の課題に対する即応性･適切性･多様性といったものに対応できるようなバックアップ体制というものを、特に人材の側面からサポートできたらいいんではないかということですね。先ほどお話ししたように障害に関わる各種リソース･教材・人材・指導法というものがございますのでそういったものの活用のためのデータベースの構築でしたり、活用の共有の場を作っていくということですね、そういったことについて検討をしていきます。そういったことをもって派遣隊員のスキルアップをフォローしていくだとか、任国の人材育成の協力をするとかといったことが期待できるんではないか。あともう 1 つは現地調査を兼ねた形で巡回サポートを実際に 2 つの国で行ってみました。でそうした巡回サポートの有効性について先年度の課題にあったわけです。で最後になりますが帰国隊員とのネットワーク構築ということですが帰国隊員と現在派遣されている隊員との間で情報の共有であったり、引継ぎは行われているんですが、同じ学校で勤務したりするわけなんですね、非常にその学校の中の状況を知りたいだとかそういったときに帰国隊員の情報はきわめて重要ですし、そういったネットワークを構築できないか、そういったことを考えてきたわけです。それで私しどもの任地調査を実施した結果が質問としては派遣国の活動内容･勤務経験等についてお伺いしたわけなんですが、例えばこのグラフをご覧になっていただいてブルーが要請内容です、で紫色になっているのが任務内容なんですが、やや要請内容と実際に行ってみてってのが異なってきているようなんですね。特にこれは詳細に見ていくとどうも 2 年目の隊員の方が要請内容よりもさらに拡大した活動を展開しているようだということが分かってきたんですね。こ

こで一番違うのが教材作成･教材開発という内容になっていました。で任地調査から分かってきたことなんですが、国内での経験年数は養護隊員の方々、ほとんど 10 年未満の経験の方々でした。まさに国内でも力をつけてチームティーチングであったり、それからマネージメントということを身に付けていこうとしている方々のようでした。で派遣国では実際には担当者がいない、例えば音楽についての担当者がその学校にいないだからそこの音楽を担当してほしいだとか、体育についていない、もしくは木工の担当者がいない、といったところで、実際的な業務ですね、実際に授業を何コマかもって欲しいといった業務が非常に多いようです。で研修ニーズに関してですが、特にですねご自身の経験もまだ 10 年くらいといったところがありますので多様な子どもたちへの対応の上での指導法ですね、具体的に自傷行動が激しい自閉症のお子さんがいるんだけれどどうやったらいいんだろうということ、これは現地の方々も同じように悩んでらっしゃるんですね、でそういったことと障害児理解についての悩みが多かったです。10:59 派遣国で必要とされるサポートについてお伺いしましたが、やはり指導法ですね、具体的な指導法について、それから障害理解を含めたそこの現地の人材育成をしていかないと隊員が派遣されている間はまだよしとしてもですね、帰ってきた後どうなってしまうんだろうってことがあるんですね。そういった意味では人材育成をしていく現地のスタッフのスキルアップ・パワーアップですね、といったことをどうやって定着させていくか維持していくかってことが特に 2 年目の方々には非常に大きな要請内容として出ておりました。そういったサポートの形態としては専門家を派遣して欲しいだとか隊員を増員して欲しいだとか非常に切実な声が聞こえたように思っています。で最後のところの帰国隊員との情報共有についてはですね、非常に強いニーズがありました。現地調査ではジャマイカとマレーシアに行ったわけなんですが、現地調査から見えてきたこととしては隊員個々に対する期待は非常に大きいです。例えば体育の授業、上手にやってもらってよかった、そういう集団構成の仕方があると分かっただとか、って意味で隊員それぞれの方々の授業経験です、それを発揮していくってことに非常に強い期待があります。それからそういったことが背景にありますので、授業場面における成果っていうのを非常に望んでいるんですね。その授業を見ていただいて保護者がこう変わったよとかといったことだとか、子どもたちが実際にこんなふうに変容してきたよってことを強く期待しているようです。2 つの国しか見ていないんですが、教科領域ようするに通常教育に準じた形での教科領域ですね、教科領域の指導に関しては授業スタイルはほぼ確立されているようです、ただその教科領域、カリキュラムの中で障害のある子どもたちへの適応をどうしていくかといったところで実際に現地のスタッフ、それから隊員の方々が苦戦している様子というのが見受けられました。そういったことの基本になるのがまず障害の理解ということなんですが、自閉症の子どもたちはどういうふうに世界を受けとめているんだろうとか、1 つ 1 つの刺激がどういうふうに受けとめられてそれがこのような反応になってきているんだという、いわゆるプロセスを理解していくだとか構造を理解していくといったところですね、その辺が不十分ですと自閉症のお子さんたちに対して非

常に不快になってしまう刺激というのを常に提示し続けることになる。それによって子どもたちはストレスがたまってしまう、あの高まってしまいますのでそういったことでパニックになってしまう、そういった悪循環が起こっているというのもいくつかの場面で見られました。そういった意味では障害そのものを理解していくってことが非常に重要になってきているだろう。あとですね、具体的には隊員が作ったブックレット等を見させていただいたんですが、そういったブックレット、現地のスタッフが研修するためもしくは授業を計画していくための参考書ですね、そういったものが非常に大きな成果をあげているようでした。これはジャマイカの隊員が作ったブックレットなんですが、ジャマイカは英語圏ですので、英語版です。左側のものがウッドワークですからいわゆる木工ですね、木工に関する製品を作っていくものです。で右側は体育、フィジカル・エジュケーションなんですが、について、でそういった障害児の体育というものがそれまで現地になかったということのようです。でこれは現地調査・巡回相談の様子なんですがちょっとだけですね、現地の様子を見ていただければと思います。－ビデオー　これはマレーシアなんですが、小学校の中に特殊学級がありました。私どもの方で研修授業の中で 1 つの柱が e-learning というのがございます。でこの e-learning というのは私どもが現実に毎週毎週行っている現職教員研修ですね、そういった内容いわゆるこれはもう単位になるプログラムなんですが、そういった内容ですとかセミナーであったり、それからケースカンファランスですね、附属学校と私どもセンター、それから提携している県の教育委員会にですね e-learning の拠点をすでに置いてあります。ですから自閉症のお子さんでこういうこと困っているんだけどというのをそのパートナーの附属学校の教員とですね、実際に子どもたちのビデオ映像であったりそういうものを介しながらカンファランスをするですとか、そういった構造を考えているわけです。そのイメージだけ把握していただければと思いますが。－ビデオー　この左側の方に小さい窓があるんですが、ここが講師が見えている窓になります。で右側の方がですね今使っているパワーポイントがそのままページ送りがこのまま右側に出てくるわけです。17:05

実はこの裏側には各拠点のですね、ビデオ映像というのが入っております。こういったことで日常的な講義等を配信することについての国内実験は今年度行ってきました。それからジャマイカ、マレーシアでの通信実験というのも今回行ってきたのですが、先ほど附属小学校のところでおひとかた通信環境についてのお話があったと思いますが、私どもの調査ではメールとインターネットのアクセスに関しては 9 割がたの隊員が何らかの方法でできているという情報がありました。ただ回線が細いものですから、今現状のこのテレビ会議のシステムはちょっと負荷が大きすぎて成立はしておりません。ですから今私どもが考えているのは、圧縮技術を開発のメーカーの方に依頼をしましてスカイプというソフトがあるのですが、スカイプのものに入れかえることで負荷を小さくするということ、それから回線としては ADSL の１９０けいという非常に細いラインで映像を入れたスカイプでの e-learning での実験というのはできております。ですからそういったことでこれから実

験を重ねながら活用していただけるようにというふうに思っております。・・・についてはお目通し下さい。今後の活動予定ですが私こちらにネットワークの申し込み書というものを持ってきております。全国の盲・聾・養護学校にご案内をしまして、これまでの帰国された隊員にこのネットワーク、これは専用・・・を用いるものですが、ネットワークの加入をお願いしております。ですからぜひみなさんもこの登録をしていただいて書き込み等に関してはその専用のパスワードをお使いいただいて入っていただくということで、そのブログを活用して派遣隊員からの質問であったり帰国隊員が現地にいるところのお話としてフィードバックしていただいたり、それから私どものスタッフがその質問等に対してのコメントを入れたりといういわゆる情報共有の場をブログの上で今作成しておりますので、そういった活用について関心が高い方がいらっしゃいましたらぜひ今回登録をしていただければと思っております。私どものセンターのホームページと専用ブログ、国際教育協力ネットワークというふうに名づけているのですが、この専用ブログのアドレスは皆さんに配布したものがございますので、ぜひアクセスしてみて下さい。以上です。

どうもありがとうございました。それでは現職の先生方、何か質問とかありましたら今どうぞ。

ありがとうございました。カメルーン派遣予定の小学校教員の坂本と申します。昨日は失礼しました。一つお聞きしたいのですけれど、ジャマイカとカメルーンの現地調査のことがあったのですが、あっマレーシア、アフリカとかにも知的障害とか自閉症を持たれた方とかいらっしゃるのですか？知っている限りで結構なので教えてください。

障害の発現自体は人種・地域を問わないですから、いらっしゃいます。ただ国によって皆さん就学しているかどうかということに関してはそれぞれの国の事情が違うんですね。JICA の方に来ている各国からの養護隊員、いわゆる障害児教育を含む福祉、幼児教育というところになるのですが、そちらの要請数はあるようです。私どもの調査をしたところではアフリカ地域というのはまだまだ少ない、養護隊員の派遣としては少なかったようです。特にアジアと中南米が非常に多かったというふうに結果が出ております。ただ子どもたちは就学しているいないに関わらず、いるのは事実です。

たくさんいるとかはわからない？

出現率等については人種とくに変わらないのでいらっしゃるとか・・・。

中田です。アフリカのそういう調査、論文はたくさん出てきています。ですから手話を開発しているとかそれぞれの国がやっているんですね。それは日本に比べたらまだ低いレベルなんですけれども。昨年はジンバブエに養護隊員の方が行ってらっしゃいましたね。・・・。私もジンバブエ行きましたけれども、ちゃんと盲、聾、養護学校そういったものがあります。非常に十分でないにしても・・・。

ありがとうございました。

他にいらっしゃいませんか？どうぞ。

マレーシア派遣予定の養護で派遣予定の清水と申します。先ほどブックレットとかいろ

んな教材とかすごく見たいと思うんですけれども、そのホームページとかにいけば見れるのでしょうか？

今回ご紹介したものは私どものセンターの、このすぐ下にあるのですが、そちらにございます。ですからお昼休みまでにはお持ちするようにしますので。あとはですね、JICA の方に問い合わせが可能なのかな、それぞれの隊員が個人でブログ、皆さんも ICT 研修をされると思いますが個人でブログを開いてそういった活動報告をしている方々もいらっしゃるようです。ブックレットに関しては、私が把握しているところではメキシコでも昨年度出しているようです。隊員たちの 2 年間の成果として出している方々がいらっしゃるように把握をしております。

あとそういう教材とかの情報が集積されたものというのはどこかにあるのでしょうか？

人材に関しては私どものセンターの方で調査をしておりまして、それはホームページの方へアップしております。講師派遣実績ということでそれぞれの教員がそういった内容でどういった所へ派遣されてきたかという実績ですね。教材等についてはデータベース化していくことが非常に困難なんですね、それぞれの子どもによって適用もかわってきますので。ですからその辺については附属学校のサポートパートナーをそれぞれの方々のご希望があれば引き合わせていきたいと思っておりますので、そういったその窓口を活用していただければと思っております。

ありがとうございました。すみません、

時間が来ましたので後ほど直接先生のほうへご質問してください。では次の発表ですけれども・・・。それでは時間がきました。家政教育に関して日本女子大の佐々井先生に発表していただきます。よろしくお願いします。

こんにちは。家政分野ということですが、家政は現職派遣の方が非常に人数が少ないということで、むしろ家政の専門的な方にサポートというよりは他の分野でいらっしゃった時に生活上の支援とかあるいは何かイベントを行う時に必要な内容というものが家庭科の教科の中にあるんじゃないかということで、今回教材作りをしてみました。活動内容は派遣隊員報告の調査を行いまして隊員報告書の中から一般隊員の家政に関わるものとかあるいは小学校の中で家政に関わる活動をしていらっしゃる分野を抜き出しまして調査いたしました。それから帰国隊員によるフォーラムの開催で具体的な現地情報を見ました。それから今回皆さんにお配布しております携帯ハンドブックということで非常に薄いものなんですけれども、1 番生活に基本的なものというものを取り上げてみました。それから家庭科に関わる教材開発と現地サモアの視察を行いました。ハンドブックですけれども、生活の基礎となる家政分野ということで家政分野の隊員のみでなく生活に関わる指導を必要とするすべての隊員に共通する内容を盛り込む、身近な生活を通して科学的な目を養う、簡単な技術の指導に役立てていただきたいということを目的としております。目次といたしましては、家族と家庭生活、食生活、衣生活、衛生、環境というものが入っておりまして、

例えば家族と家庭生活の中にはこれは 1 日の生活時間というのを取り上げまして、生活時間という考え方これはどの分野にも家庭科という時間があるとは思いませんがどこにでも入り込んで自分の生活、家族の生活を振り返るという要素が必要ではないかということで、あるいは他の教科のどこかの部分に取り入れるとか、そういうふうな生活指導の一環としての生活時間調査というのは非常に役に立つのではないかというふうに考えて取り上げております。それから食生活では各国によって全く異なる食材、食事内容ということが分かっておりますけれども人間が必要とする栄養と食品という立場から 1 番基本的な要素を取り上げております。現地の食材との関係でどのように考えていったらよいのかということを指導していただけたらと思います。それから簡単な調理の方法について知ることによって課外の実習とかあるいは特に女性の隊員たちと地域のために開かれた何かをしなければならないという

青年海外協力隊　現職教員特別研修

障害児教育分野における青年海外協力隊派遣
現職教員のサポート事業のご紹介

筑波大学特別支援教育研究センター
センター長　　前川　久男

事業の概要

○筑波大学にある心身障害科学研究、附属障害教育５校と特別支援教育研究センターにおける専門性と実践的研究等を基盤とした高度な職業人養成機能の活用
○研修プログラムと人材の活用
○様々な教育的リソースの活用
○大学間連携や機関連携で活用してきた独自の情報ネットワークの活用

↓

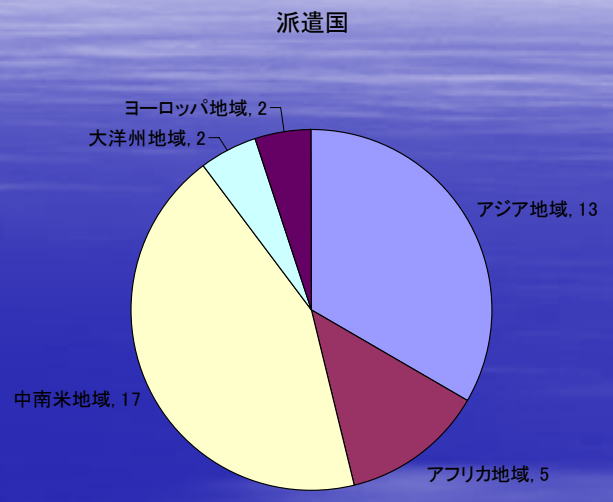
○派遣隊員のサポートニーズ調査
○派遣前研修の更なる改善と発展
○派遣隊員の課題に対する的確な対応（即応性・適切性・多様性）
○障害に関わる各種リソースの集積と提供（教材・人材・指導法等）
○派遣隊員のスキルアップのフォロー
○任国における人材育成への協力
○巡回サポートの展開
○帰国隊員とのネットワーク構築

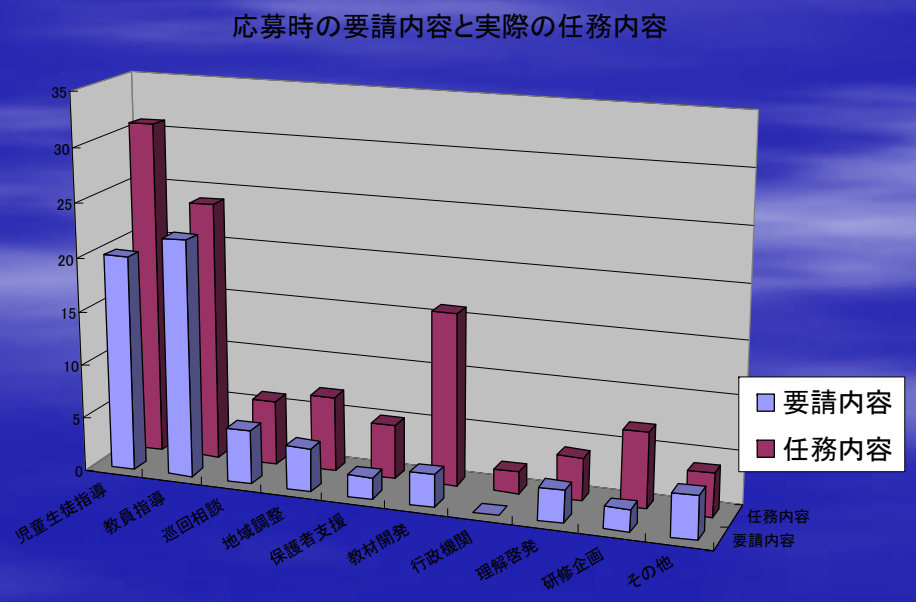
ニーズ調査の実施

派遣中の養護隊員を対象（選択式アンケート調査）

59人中39人　：回収率66．1％

質問項目
- ・派遣国及び活動内容
- ・勤務経験と基礎資格等
- ・応募動機と展開したい活動等
- ・派遣前研修のニーズ
- ・派遣中のサポートニーズ
- ・通信環境及びインターネットスキル





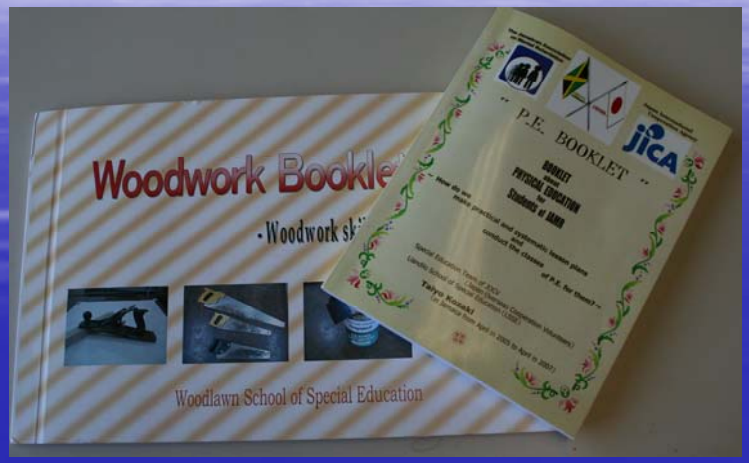
ニーズ調査から

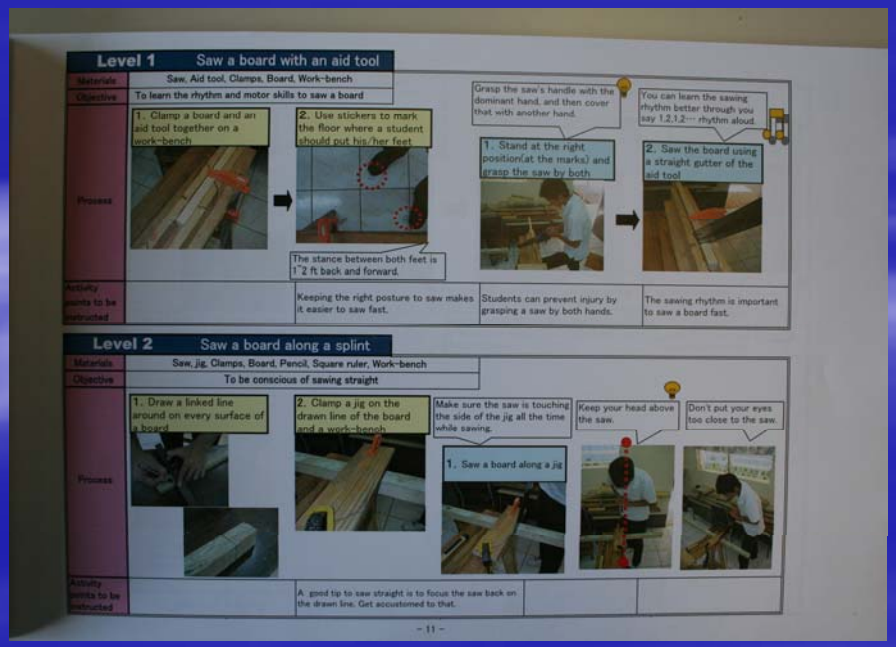
〇国内での経験年数に関しては10年未満の隊員が半数を超える
〇派遣国では、担当者のいない領域を担う実際的担い手としての期待が多い
〇研修ニーズとしては、指導法、障害理解の内容が多い
〇派遣国に必要なサポートとしては、「指導法」と「人材養成」をあげている
〇サポートの形態として、「専門家の派遣」「隊員の増員」が多い
〇帰国隊員との情報共有及びアドバイスを求めている傾向が高い

現地調査から（ジャマイカ・マレーシア）

〇隊員個々のスキルに対する期待が大きい
〇授業における具体的な成果を望んでいる
〇教科・領域に基づいた指導を中心とした授業スタイルはほぼ確立されている
〇障害の理解や障害特性に基づいた指導の見通しは不十分（特に重度児、自閉症）
〇ブックレット作成など教員のスキルアップに資する成果への評価が高い
〇現地スタッフの人材養成への期待が大きい

隊員の作ったブックレット





現地調査及び巡回相談の様子

ジャマイカ、ランダイロ特殊教育学校

JAMR（ジャマイカ知的障害協会）総会
ブックレット贈呈式における隊員のプレゼンテーション

マレーシア、グラゴー小学校

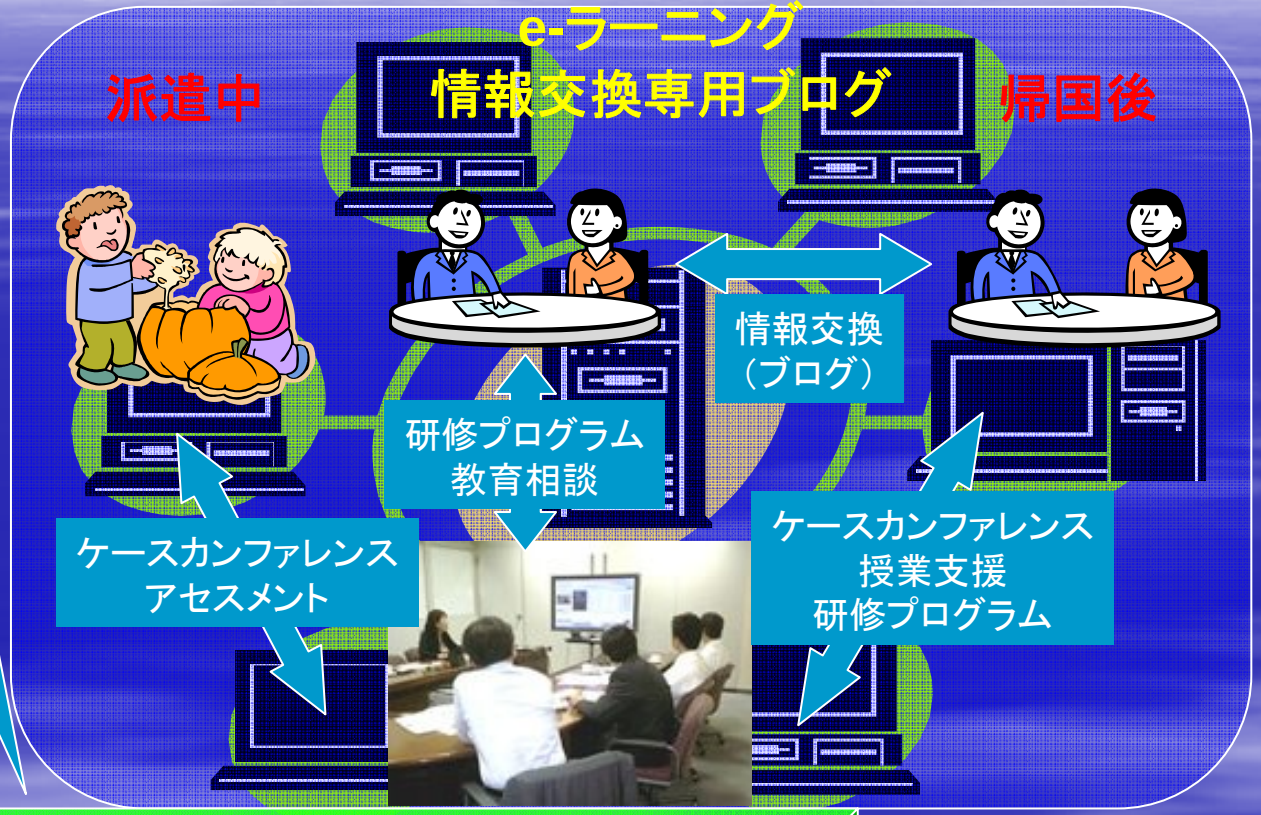
障害児教育部門における青年海外協力隊派遣現職教員サポート体制の将来構想図（筑波大学）

派遣前訓練

○研修プログラムの提供
- ・講義、演習、実習
- ・指導法、教材の活用

○派遣国教育情報の提供

○テレサポートシステムの活用研修



筑波大学特別支援教育研究センター

筑波大学附属障害教育5校

筑波大学教育開発国際協力研究センター

国立特殊教育総合研究所

連携大学センター等

今年度の成果

- ニーズ調査を行い、隊員の課題及び継続的サポートの視点が得られた
- CRICEDのメーリングリストを活用して、派遣現職教員の課題に関する支援が展開できた（5カ国のべ14件）
- 派遣隊員のネットワーク環境及びスキルに関して把握することができた
- 派遣隊員と帰国隊員及び筑波大学間の情報交換専用ブログを立ち上げた
- 2カ国（ジャマイカ・マレーシア）をモデル地域として拠点構築の見通しをもった
- 附属障害教育5校を対象とし、講師派遣実績調査を行い、人材バンク（サポートパートナー）の基礎資料を得た

今後の活動予定

- 今年度派遣現職教員の専用ブログ会員登録
- 派遣前研修中の相談窓口開設（特別支援教育研究センター及び附属障害教育5校からの情報等）
- 指導法・障害理解・基礎理論テキスト配布（希望者）
- 拠点モデル構築（ジャマイカ・マレーシア）

＊本日中に登録用紙に必要事項をご記入の上、回収ボックスにお入れください。
後日、メールで詳細のご連絡を致します。

特別支援教育研究センターホームページ

http://www.human.tsukuba.ac.jp/~sserc/

国際教育協力ネットワーク（専用ブログ）

http://initiative.justblog.jp/blog/